

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

| | | | |
|---------|------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2792200376 | | |
| 法人名 | スターツケアサービス株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホームきらら南翼 | | |
| 所在地 | 大阪市生野区巽中4丁目12-35 | | |
| 自己評価作成日 | 平成31年10月18日 | 評価結果市町村受理日 | 平成31年12月18日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター | | |
| 所在地 | 大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階 | | |
| 訪問調査日 | 平成31年10月24日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成29年3月1日にオープン致しました。介護保険法に従い認知症によって自立した生活が困難になった要介護状態のご利用者に対して家庭的な環境の中で心身の機能訓練を行うと共に地域住民との交流の元、住み慣れた環境での生活を継続できるようにする事を目指し安心と尊厳ある生活をご利用者がその有する能力に応じて自立した生活を営むことができるよう支援することを目的とします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の特色は、一致団結した全職員のチームワークである。管理者の目指す介護は、利用者一人ひとりのケア、利用者のためのケアであることを明確に示し、職員が目標に向かって知恵を出し合っている。職員手作りの食事が提供され、男性利用者だけの食事があり、1日に1回は利用者が外の風に当たる外出を行っている。次に力を入れている点は、家族と連携して利用者の暮らしを支えていることである。隔月の運営推進会議には、複数の家族が利用者と一緒に参加して、会議の後にはミニ家族会を行っている。施設に備えているAEDを使った救命講習に、家族も参加できるように案内している。利用者の生活ぶりを毎月家族へ伝える資料「参加表」も、家族から好評である。職員のアイデアであるこの資料の狙いは、「利用者個々のできる力を把握して、本人本位のケアのあり方を明確にしたい」という、次のチャレンジへの通過点でもある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝の朝礼時に理念の唱和を行い今日一日理念を踏まえた具体的な行動を職員一人ひとりに確認している。 | 「その人らしさを優先したサービスの提供」「社会福祉に携わる者としての自覚と誇り」「地域の一員であることの自覚」を事業所の理念として掲げ、朝礼時に唱和することで職員の呼吸を合わせて、利用者の支援に取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 毎朝の散歩又は買い物途中に行き交う人、地域の方と挨拶を交わしながら歩いています。また、認知症予防食の実施や夏祭りを通じて地域の方がホームに足を運びやすい環境を整備しています。 | 地域社会との触れ合いを理念にも表現して、朝の散歩の時は近隣の人と触れ合い、認知症予防の料理レシピを地域の高齢家族に紹介するなど、地域と支え合う関係作りに努めている。また、地域の行事に参加したり、事業所の行事を地域に案内している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症予防食の実施により地域の方へ作り方やレシピの公開を行い試食を実施。夏祭りの実施により地域の方々にも参加して頂けた。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議でご利用者や家族様から頂いたご意見を活かしサービスの向上に努めている。 | 地域代表者の町会長、複数の家族と利用者、地域包括支援センター担当者、知見者の薬剤師を構成員として、隔月に会議を開催している。会議では、事業所の運営状況を詳しく報告している。ビデオを使った利用者の暮らしぶりの紹介は、事業所の状況が良くわかると、会議参加者に評価されている。 | 職員がスキル向上に努めている研修の報告を議題として取り上げ、介護職に求められているスキルを知ってもらい、理解してもらおう機会とすることを期待する。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 役所との連携をとれるよう対応させて頂きます。自治会や老人会の参加を促すよう指摘を受けました。 | 主として管理者が行政関係部門との窓口となって、事業所の運営状況を報告し、個々の事例ごとに相談して、行政からのアドバイスを受け、事業所運営に活かすように努めている。先般、実地指導があり、適正に運営していることが確認された。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会を発足し年4回以上の研修を開催している。 | 職員が主体となった身体拘束廃止委員会を設け、日常のケアの確認や年4回の研修を行って、身体拘束や虐待の未然防止に努めている。玄関は原則として開錠し、見守りを徹底して、利用者の不穏な様子を素早く察知することに努めており、調査当日も、利用者の落ち着いた様子が確認できた。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修を実施し関心と理解を深めています。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修を実施し関心と理解を深めています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 丁寧な説明と時間をかけた契約を心がけています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご意見、苦情箱を設けています。 運営推進会議にて質問等のあった場合は丁寧な説明を心がけています。 | 利用者の状況をその都度、電話連絡などで速やかに家族に報告しており、報告の速さは家族の安心感となっている。「生活状況報告シート」「参加表」という書類を毎月家族に送付して、本人の毎日の暮らしぶりが詳しくわかるようになっている。利用者と一緒に運営推進会議に参加している家族も多い。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月全体会議を実施しています。 年2回の懇親会を予定しています。 | 当事業所の職員は、誰もが来訪者に笑顔で対応してくれる。家族から見ると「職員が一団結している」事業所である。職員一人ひとりが「利用者のために」と思う気持ちと、管理者が求める「認知症介護の目標」により、職員全員が意欲的に介護サービスの質の向上に取り組んでいる。 | 介護サービスの質の向上の通過点として、利用者の暮らしぶりを家族に伝える「参加表」のアイデアがあるように思われ、今後は、さらに利用者一人ひとりの思いに沿ったケアを実現することを期待する。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 昇給・賞与に関しては個人別にフィードバックしている。また、7月は挨拶推進月間。8月は笑顔月間。9月はありがとう月間。10月はお節介月間を実施。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人として毎月研修を実施。外部研修の推進受講料補助等している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡会が概ね3か月に1度参加させて頂いている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | アセスメントや本人の気持ちを理解すべくコミュニケーションに時間をかけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 体調の変化やご様子の電話連絡は随時実施しております。毎月1回は1か月の状況報告を書類にてご報告させて頂いている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | キメ細やかにヒアリングを実施し気持ちの変化や体調の変化に合わせて迅速な対応を心がけている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居様から教えを乞うことを念頭に置き支え合って生活させて頂いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員は家族様にホームでの様子や体調についてお話させて頂いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族様をはじめ親戚や友人の訪問を時間限定せず随時訪問して頂いている。 | 入居しても、利用者の今までの暮らしの中での交友関係や社会との繋がりが継続できるように配慮している。利用者の親戚、知人の来訪や、馴染みの店や場所(美容院、神社)への外出支援も心がけている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 孤立しないようさり気なく声をかけさせて頂いています。また、必要な事を居室内で完結しないよう極力リビングにて過ごして頂いている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 関係終了後1か月後に電話連絡している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 行きたい場所や食べたい物の希望をお聞きして実現できるよう支援させて頂いています。職員のみで実施が難しい時はご家族様にもご相談させて頂いている。 | 入居するまでの利用者の生活歴を、家族の協力を得てフェースシートにまとめ、趣味や嗜好、暮らし方の希望を聞いて、本人本位の支援に繋げるようにしている。外食の時には、食べたい料理を自分で選んでもらっている。行きたい場所や着る服などを、できるだけ自己決定してもらうように努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 行きたい場所や食べたい物の聞き実施できるよう支援させて頂いている。また、入居日初日はご本人の食べたい物や好物を用意して迎い入れています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 起床時間や就寝時間に制限を設けず自由に過ごして頂いています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | サービス担当者会議や毎月実施されるカンファレンスにて反映している。 | サービス担当者会議や毎月のユニット毎の会議で、利用者の状況に関するカンファレンスを行って、介護計画書の項目を確認している。本人の状況変化により見直しが必要と判断した場合は、家族の希望を聞き、かかりつけ医による医療面の意見を参考にして、介護計画書の見直しを行っている。見直した計画書は家族に説明して同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録を丁寧で正確な情報にできるよう努力している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入浴の為、日帰り温泉の実施、ナイトカフェ。駅弁大会やお寿司の実施。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 喫茶店や飲食については地域のお店を利用。神社や散歩には近所を利用。散歩中はすれ違う人に挨拶の実施。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 内科・精神科は1か月に2度の往診あり。また、急な体調不良には24時間オンコールにて対応させて頂いている。 | かかりつけ医は、家族の希望を優先して決定している。契約医療機関の月2回の訪問診療による万全の医療支援体制を構築している。また、24時間オンコール体制で緊急事態に備えている。歯科医による口腔ケアを徹底して、嚥下能力の維持に努めている。眼科、皮膚科などの専門的診療科への通院は、基本的には家族にお願いしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎週1回の訪問と体調の変化についてはホーム側からの連絡を25時間オンコールにて対応。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院中や日々の訪問にて病院の連携室とのコミュニケーションを図っています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した時の為の指針を示しています。重度化した際には早期に家族様と十分に話し合いを重ね医療関係者とチームで支援できるよう取り組んでいる。 | 入居の時点で、重度化や終末期に対する事業所の方針を家族に説明して同意を得ている。利用者が重篤な事態に至った時点で、かかりつけ医の意見を聞いて、家族の希望を確認し、かかりつけ医と協力して、家族の意向に沿うような体制作りをして支援する方針である。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時の対応や事故発生時のマニュアルに従い訓練をしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年間2回以上の研修を実施しています。 | 煙や熱感知器、通報設備、スプリンクラーや消火器、避難経路の確保と整理整頓は完備、整備されている。通報、避難、水消火器の操作訓練は、消防署の指導と協力を得て行っている。昨年の台風21号の襲来により、風水害や地震などについても、防災意識が高まってきている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりのプライバシーを尊重し配慮する言葉かけや対応を実施させて頂いている。 | 職員の利用者への声掛けや応答などは、本人の気持ちや精神的状態に応じた対応が行われている。高齢者の尊厳を大切にしながら、ゆっくりとした口調で応答し、「ちょっと待って」などのスピーチロック的な応答もなく、利用者との信頼関係ができてきている雰囲気である。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 常にご希望をお聞きし自己決定できるよう務めさせて頂いている。1日に1回はお一人、おひとりゆっくりお話しさせて頂いている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人様の昔からの生活、環境を把握し個人にて対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人様、家族様からの情報を元に要望に応じ対応させて頂いています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節に合わせた食事や外食の提供。また、食材選びなど楽しい食事ができるよう心掛けています。 | 買物、調理、片付けなど、食事に関係する一連の流れを利用者と共に行うようにしている。調査当日の調査員の食事やおやつも、利用者がワゴンテーブルを押して配膳してもらった。季節感のある食材を使った食事が提供されている。歯科医の口腔ケアもあり、利用者は、バーベキューの肉も食べられる嚥下能力を維持している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1日1500カロリーを目安に食事を提供している。水分も1500CCを目安にしている。お茶や牛乳など制限がない限りは自由に選び飲んで頂いている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯科衛生士が週に1回訪問するのでその際に一人ひとりに対応したケアを指導して頂いている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | できる限りトイレへの誘導、利用を促しています。 | 利用者一人ひとりの排泄と特徴(頻度、量、質)を記録して、排泄リズムやパターン、尿意のシグナルを把握して、本人の様子を見ながら声掛けしてトイレ誘導している。排泄支援は、水分補給の量や食事内容との関連も考慮に入れながら行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 甘酒や納豆類の発酵食品の取入れや運動を実施している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | その時の状況や希望により入浴している。拒否が続いた場合は声かけや様子を見ながら入浴して頂いている。 | 本人の希望を優先した入浴支援を行っている。入浴拒否がある場合は、本人の意思を確認して、日にちや時間を替え、必要により清拭や足浴に切り替えて、清潔保持に努めている。時には入浴剤を使用するなど、ゆっくり入浴してもらえるように努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 室温や換気、温度等に配慮し本人様が眠くなった時に就寝を促している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お薬カートを使用し間違えのないよう支援しています。時には薬剤師によるお薬の説明を受けたり情報の理解に努めています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 1日1回は必ず外の風に当たり外出している。行き交う人々には必ず挨拶をしている。洗濯、調理も無理強いせずできる範囲で実施できるよう対応させて頂いています。余暇の過ごし方も本人様の希望にて自由にお過ごし頂いてまいります。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 1日1回は必ず外の風に当たり外出している。行き交う人々には必ず挨拶をしている。洗濯、調理も無理強いせずできる範囲で実施できるよう対応させて頂いています。 | 利用者の体調と天候を見て、毎日のように外出し、近所の散歩や花の水やりなどで外気に触れるように努めている。また、買い物や食事、季節の花見などで外出している。家族は、毎月送付されてくる「参加表」で、利用者の外出の頻度も知ることができる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 日々の買い物の支払いの際は入居者様にお支払いをして頂いています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | はがきで暑中見舞いや年賀状を作成しています。電話も自由にお使い頂けるようリビングにて設置させて頂いています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共同の空間は安全に利用できるよう配慮しています。またソファでのお昼寝も自由にできるよう対応させて頂いています。 | 事業所内部は採光が良く、全体的に明るく感じる。利用者がくつろぐリビングとキッチンが、調理の音や匂いを感じる距離にあり、「暮らしの場」の雰囲気がある。利用者が一人になれる場所も確保され、トイレや浴室の場所表示もわかりやすい。四季それぞれの季節を感じる飾りつけも、派手過ぎず丁度良い感じである。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファや長椅子等を配置し思い思いに過ごせるよう対応させて頂いています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人様やご家族様のご希望をお聞きし家具等を配置させて頂いています。 | 住み慣れた自宅で寝起きしていた時のように、利用者にとって違和感のない居室作りが支援されている。利用者が持ち込んだ家具(整理ダンス、椅子)や写真などの備品が適度に配置され、個性的な部屋作りとなっている。居室内は清掃が行き届いて清潔に維持されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの利用や洗面は自由にお使い頂けるよう衛生的に管理させて頂いております。 | | |